

採用年度	令和2年度
お名前	渡部 花奈子
派遣期間	令和2年7月19日～令和4年7月18日
書面合議・面接審査区分/小区分	工学系科学/ナノ材料科学関連
派遣国	オランダ
受入機関名	ユトレヒト大学
受入機関部局名	Soft Condensed Matter Group, Debye Institute for Nanomaterials Science
研究概要	本研究の最終目標は、電場によって内部構造を可逆的に制御可能な新しい粒子集積体(コロイド結晶)の創成である。電場印加の有無や電場印加条件(強度や周波数)によって、複数の結晶構造を創り出すことができれば、一つの材料から複数の特性を得ることができる。
派遣前の準備についてのアドバイス	<p>BSN ナンバーを取得するため、日本の戸籍抄本とその翻訳版を市役所に提出する必要があるが、その翻訳はオランダ入国後に在オランダ日本大使館へ依頼する必要がある。(その後には外務省にリガリゼーションすることも忘れずに。)私は出国前に日本の翻訳会社に依頼したが、その書類は認められなかった。正式な翻訳書類がなくてもその場でナンバーを取得することはできたが、後日改めて書類を持って市役所へ行くことになってしまった。市役所の予約は取りにくいので、派遣前によく確認して準備することをお勧めする。</p> <p>また、オランダ(特にユトレヒトなどの大きな街)では住居確保が年々困難になっている。私の場合は協力してくれる現地人がいたため困ることはなかったが、通常は住居決定までに数か月かかる。住居が決まるまで大学寮などに入居できるように事前に手配しておいたほうがよい。</p>
派遣中に問題になりうることについてのアドバイス	<p>2020年7月というコロナ禍真っただ中のオランダに渡航したため、初めの数か月間は厳しいロックダウンが続いた。私はユトレヒト大学に以前から何度も行っていたため友人も多く、孤立することはなかったが、そうでなかった場合はとても寂しい思いをしていたと思う。日本への一時帰国も、日本の水際対策が厳しかったためほぼ不可能と考えておいた方がいい。もし一時帰国する際は、日本に入国する際のPCR検査等の規定が細かく定められているので、よく確認してほしい。</p> <p>オランダ人のほぼ全員が英語を流暢に話すため、言語に関しては全く困ることはない。しかし、政府から届く書類にはオランダ語しか書かれていないことが多い。特に、確定申告の分厚い冊子を解読するにはオランダ人の助けが必須である。</p>
派遣先での生活の様子	<p>オランダは治安がよく、人々も親切で安心して暮らせる国だと感じる。多民族が暮らす国であるため、アジア人だからといって珍しがられることも特にない。近くにアジア食品専門のスーパーマーケットもあり、自炊すれば日本食も毎日のように食べられる。宅配サービスも比較的信頼できる。オランダの唯一の欠点は天気が悪い所であるが、それも慣れれば問題ない。</p> <p>2021年春頃から徐々にコロナウイルス規制が緩和され、今ではほぼコロナ前の生活ができるようになった。規制のない状態で同僚や友人と交流できる幸せを、今まさに感じている。</p>
海外特別研究員に採用されて良かったこと	<p>長期にわたる共同研究ができるようになった点である。数か月の滞在ではなし得なかった、複雑な実験や、より掘り下げた内容のディスカッションが可能となった。日本人が身近に一人もいない状態で生活することで、英語を日常的に使うようになることも大きな利点であると感じる。以前は身構えていた英語でのプレゼンテーションやディスカッションも、毎週のようにやっていたら慣れるものである。様々な国出身の同僚と話すことで、各国特有の「訛り」も学んだ。</p> <p>最後に、何不自由なく2年間も自分の研究に没頭できる機会を頂けたことに、この場を借りて深く感謝申し上げたい。研究者として、人間として成長できた本派遣期間は、私の人生においてかけがえのない財産となることを確信している。</p>